

文京区

BUNKYO GENDER EQUALITY CENTER

# 男女平等センターだより

Topics

2011

No. 69

第26回  
文京区男女平等センターまつり

きのう きょう あしたへ

## 男女平等 今こそ「絆」

### Contents

- メイン展示「これでいいの？ 女と男・子供の未来は」 2,3
- 講演&ミニライブ「男女平等 今こそ「絆」」 4
- まつりシネマ／まつりコンサート 5
- ミニ音楽会 6
- まつりワークショップ 7
- 区政を知る懇談会「新人区議は語る」 8
- プラスワンセミナー「日本社会再生の鍵は…女性の活躍」  
「皆むかし、ジェンダーがあったとき」 9
- 区からのお知らせ／本の紹介 11

2011年12月20日発行

発行／文京区女性団体連絡会 会長 大川米子  
〒113-0033 文京区本郷4丁目8番3号  
TEL.03-3814-6150 FAX.03-5689-4534

文京区男女平等センターは  
文京区女性団体連絡会(文女連)が  
指定管理者として管理・運営しています。

# 「これでいいの？女と男・子どもたちの未来は！」

2010年1月NHK「無縁社会プロジェクト」取材班が発表した「無縁死3万2千人の衝撃」は全国に大きな反響をよび、その後「消えた高齢者」「高齢者の所在不明」が相次いで発覚され、無縁社会の広がりとその深刻さが浮かび上がった。

20年後には単身世帯が四割に達するという時代を迎えた今、家族・家庭という社会の最小単位がどうなっているのかを考え、「女性の貧困」「働く女性たち」「子どもの権利」「女性に対する暴力」を取り上げた。

## (1) 現代の家族・家庭はこれであiterrいのですか

近年、家族・家庭の弱体化の一因又は結果と考えられる子どもの虐待、ニート、引きこもり、モンスターペアレンツ、離婚、無縁死、多くの犯罪などがクローズアップされてきた。

①少子化が進み、家族が小さくなった。  
合計特殊出生率が1.39人に低下。東京は最低で1.12人、沖縄が最高で1.83人。文京区は0.9人。少子化は人口構造を歪ませ、高齢者問題、労働力人口の減少、経済成長への影響が生じます。

## ②晩婚化・未婚化の進行

晩婚化：結婚年齢(2004年厚生労働省人口動態統計) 男子26歳 女子27.8歳

未婚化 (2004年総務省国勢調査)

女子	男子
25~29歳 59.0%	25~29歳 71.4%
30~34歳 32.0%	30~34歳 47.1%
35~39歳 18.4%	35~39歳 30.0%

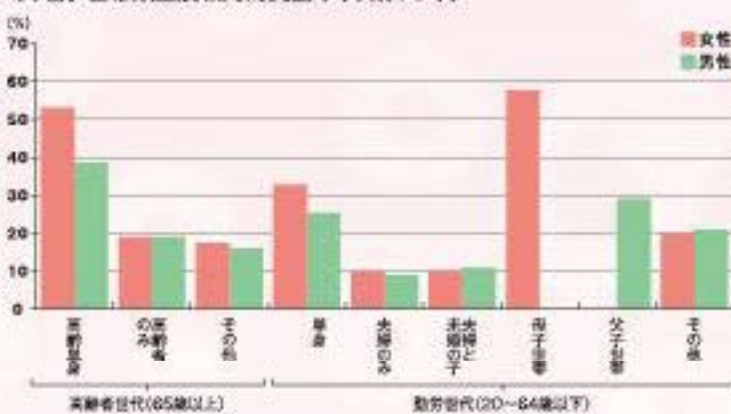
③家族・家庭についての考えや様子を  
知るために行ったアンケートの結果  
(都立高校1年216人)  
父親不在は3割弱、家族とのかがわりは週1〜2日とほとんどないを合わせると、両親がいないは34%、食事をしないは26%、会話がなは10%と家族のつながりの希薄さを感じます。家庭に望むことでは、休息・安らぎの場7%、家族団らんの場51%となっています。家族の絆を再構築する必要があるのではないのでしょうか。

## (2) 女性の貧困

女性の貧困率は、ほとんど全ての年代に於いて男性よりも高く、高齢者単

身世帯や、母子家庭に於いて特に高い。女性の現役時代の賃金が男性より低く、その差が蓄積されることにより高齢期の経済的基盤を弱くするものとしています。

①母子家庭の貧困 年代別・世帯類型別相対的貧困率(平成19年)



母子家庭での貧困は母子家庭の子どもの貧困にもつながり、母親の就業率が高いにもかかわらず貧困率が高いのが現状です。離婚母子家庭で

は養育費の取り決めをしている世帯は38%しかありません。

## ②高齢女性の貧困

平成22年、5人に一人は65歳以上で、その6割近くが女性です。高齢単身女性の中でも特に離別女性は夫の遺族年金ももらえず、経済的に厳しい状況に置かれています。三人に一人は年収120万円未満です。

## ③女性たちの厳しい現状

子どもが中学生以上となる母親の9割以上は働くことを希望しているが、パート・アルバイトで働かざるをえない状態です。

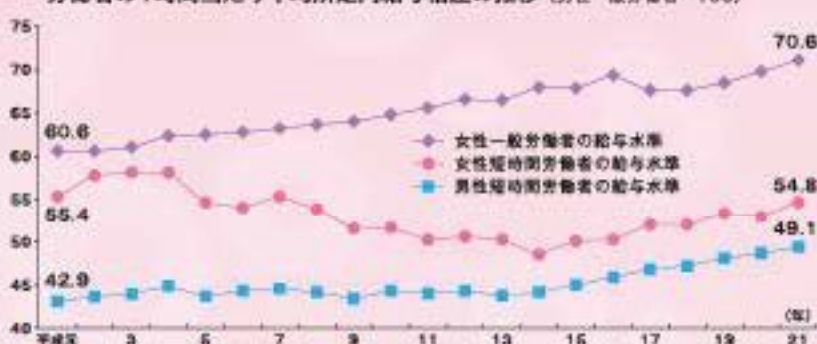
## (3) 働く女性たち

女性雇用労働者は年々増加し、2012年は過去最多の2329万人、労働力人口全体の42%になりました。しかし半数を超える1218万人(53%)は非正規労働者です。男女の非正規労働者も年々増大し、全体の37%にもなり、その割合は女性です。

## ①職場にはまだ賃金差別、昇進昇格差別、仕事差別は色濃く残っています。

正規雇用男性の賃金を100とすると、正規雇用女性は70%、非正規雇用男性は54%、非正規雇用女性は49%で

労働者の1時間当たり平均所定内給与格差の推移 (男性一般労働者=100)



(備考) 1.厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より作成。  
2.男性一般労働者の1時間当たり平均所定内給与額を100として、各区分の1時間当たり平均所定内給与額の水準を算出したものである。

す。この賃金格差が高齢期の女性の年金を引き下げています。

②ワーク・ライフ・バランス(仕事・家事・育児・地域活動をバランス良く参加できること)女性が結婚・出産後も仕事を続ける人が増えてきて、共働き世帯が片働き世帯より多くなっています。働く女性の切実な願いは、育児・老親介護のための環境整備です。生産年齢人口の減少が見込まれる現在、女性の労働力を引き出すことは、今後の持続可能な社会を築く上で重要な課題です。

(4)子どもの権利

①子どもの権利条約(1994年日本批准)

子どもは希望と夢をもって自分の世界に生きる、自らの権利を持つ人間です。全ての子どもは愛され、教育を受け、命を守られなければなりません。

②ハーグ条約：国際的な子の奪取の民事面に関する条約。

84カ国加盟。主要国で未加盟は日本とロシアです。外国人との結婚場とともに、国際離婚も増えてきています。

③児童虐待(ネグレスト・身体的虐待・心理的虐待・性的虐待)は子どもの人権侵害です！

(5)女性に対する暴力

配偶者からの暴力、性犯罪、売買春、人身取引、セクシャルハラスメント、ストーカー行為等は女性の人権を著しく侵害するもので、男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重要な課題です。

③デートDVって？…未婚のカップル間でおこる暴力が増えています。

恋愛が低年齢化するにつれ、中学生・高校生・大学生にDVが広がっています。相手に対する支配とコントロールが「愛情」と誤解され、被害者も加害者も自覚していない場合が多い。

②配偶者からの暴力

これまで配偶者から何度も暴力を受けている人(女性の10%、男性の2.9%)がいますが、誰にも相談しなかった人が女性で53%、男性で77%います。

(6)男女平等参画社会をめざして

①文京区のデータ…区民の意識の高さがわかります。

	文京区(%)	全国(%)
「ワーク・ライフ・バランス」を知っている	49.0	37.0
結婚するしないは個人の自由で良い	88.6	70.0
男(夫)は仕事、女(妻)は家庭が良い	23.8	41.3
社会全体の男女の地位の平等観(男性優位)	69.8	71.6
子どもは「男らしく」「女らしく」育てるのが良い	64.1	
女の子も経済的自立ができるようにするのが良い	94.2	
男の子も家事ができるようにするのが良い	92.6	
女性の区議会議員の割合 (2011年5月1日現在)	35.3	23区 24.8
女性の参議会委員の割合 (2011年4月1日現在)	29.3	30.6
女性の管理職員の割合 (2011年4月1日現在)	16.3	12.8

②民法上に残る男女差別

- ◆…結婚年齢…男性18歳 女性16歳を男女とも18歳とすること
- ◆…女性の再婚禁止期間6ヶ月を廃止すること
- ◆…夫婦同姓の強制を廃止し選択的夫婦別姓制度を導入すること
- ◆…婚外子に対する差別を撤廃すること

③世界の女性たちの中の日本の女性たち

- ◆…Hロー人間開発指数 169カ国中11位

- ◆「長寿で健康な生活」「知識」「人間らしい生活水準」で比較
- ◆…G-ジェンダー不平等指数 134カ国中12位
- ◆…G-ジェンダーギャップ指数 134カ国中94位
- ◆…G-ジェンダーギャップ指数 経済・教育・健康・政治の各分野のデータから

終わりに

日本政府は8月に国連の女子差別撤廃委員会へ報告書を出しました。それに対して、女性差別撤廃委員会から11月30日に勧告が出されました。民法の改正(男女の結婚年齢を18歳にすること、選択的夫婦別姓制度の導入、婚外子に対する差別を撤廃すること、女性の再婚禁止期間6ヶ月の廃止)を一年以内に報告すること。

政策・方針決定過程への女性の参画の積極的差別是正措置については、2年後の定期報告に盛り込むことを求められました。いろいろな分野に男女差別は根強く残っています。意識改革のための啓発活動はこれからも大切に取り組みます。ますますい勢いで進む高齢社会は、益々厳しい困難な問題を提起し、セイフティネットが不十分な現在、最後のよりどころとしての家族・家庭の絆、地域の絆を再構築することが求められています。

(マイ・イン)展示施設

まつりシネマ

第30回日本アカデミー賞 最優秀作品賞受賞作品

「フラガール」

監督：李 相日  
出演：松雪 泰子  
藤井 優 他



今年の3月に東日本大震災にみまわれた福島県いわき市は、半世紀前は炭坑の町でした。昭和30年代に町の経済を支えてきた常磐炭坑が閉鎖され、人々の生活は大きな試練に立たされました。この映画は、町興しに「東北のハワイ」を作ろうと立ち上がった女性たちの実話です。60代の私にとっては、幼い頃に懸念に行ける「ハワイ」と言えば「常磐ハワイアンセンター」(現スリゾートハワイアンズ)という刷り込みがありますが、同様の情

かしい思い出をお持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

典型的な男社会である炭坑を中心とした他の産業もほとんど炭坑と関連する「城下町」が、人々の意思とは関係なく生かす男社会の崩壊の始まりでした。それまで全てを男に頼ってきた女たちは、否応無く社会と直面します。そこで女たちは自分と家族の「絆」のために、今できることをしようと行動を起こします。

父や夫に反対され困難にしばられるながらも、一所懸命フラダンスを習い、寂れた町の復興を実現して行きます。そして最後には町中の人々が力を合わせて「東北のハワイ」の事業を成功させ、強い「絆」を作ります。

映画の中の女性たちの活躍は、今年のセンターまつりのテーマである「男女平等」こそ「絆」に通じるものがあります。その素晴らしい実績が、人々の意思とは関係なくやってきた東日本大震災から力強く復興するために、参考になればと願わずにはいられません。

軽やかな太鼓の音に合わせて、時に激しく時に優雅に振られる潮の動きや群舞の華やかさには目を奪われました。主演の松雪泰子と藤井優そして、田舎の娘さんらしいのんびり屋でおおらかなしずちゃんたちの見事なダンス、涙をぬめた富司純子たちの名演技に、会場は笑いと涙で包まれました。(片岡道子)

まつりコンサート

「クラシックとタンゴの出会い」

出演：クインテス ベランツァ

まつりコンサートで「クラシックとタンゴの出会い」を聞く機会に恵まれました。このコンサートは男女5人で構成された「クインテスベランツァ」という弦楽四重奏とバンドネオンによるものでした。今までクラシック音楽を聴く機会は多々ありましたが、タンゴを聴く機会はほとんど無く、どのような演奏になるのか楽しみでした。

演奏は始めの「リベルタンゴ」から、終りの「チャルダッシュ」まで、それぞれの曲が弦楽器の美しい音色と、バンドネオンのタンゴ独特の音色とリズムの良さが訪み合い、今まで聞いた事のない雰囲気を感じ出していました。なかでも「G線上のアリア」はヴァイオリンとバンドネオンとがそれぞれ楽器の特色が良く出ていて、楽しく聞く事が出来ました。(森田 隆)

クラシックの弦楽四重奏にアルゼンチンタンゴに欠かせない「バンドネオン」という楽器を加え、五重奏という意味の「Quinteto」と「Esperanza」希望という意味を合わせて「クインテスベランツァ」という名前をつけたそうです。クラシック、特に弦楽四重奏というと静かに耳を傾けて微妙な楽器のハーモニーを聞き分けるというイメージが強く、とかく敬遠する傾向があるような気がします。演奏が始まると、まさにタンゴの世界、蓄切れの良いリズムと哀愁、ベロンソが相まって心に響く、胸に迫る



ものがありました。「リベルタンゴ」「G線上のアリア」「アラソフェス協奏曲より」「チャルダッシュ」など馴染みの曲が新しい編成で絶妙な演奏を披露されました。20代の若い青年音楽家たちが、新しい編成のための新しい譜面に向き合い一生懸命取り組む姿は、聴く者にとって生きる力を与える希望であり、それこそ音楽の使命と言えるのではないでしょうか。感動で今眠れないわ」と感想を述べて帰られた女性の言葉を思い出しています。(伊藤 明子)

センターまつりワークショップ

# 再発見!! サイエンスの楽しさ

～身近な理科のおもしろさを感じよう～

主催：お茶の水女子大学理学部化学科准教授 環境科学倶楽部顧問 森 義仁氏

〈講座の趣旨〉

みなさんは「理科」が好きですか？私たちは、年に6回程度、地域の小学生を対象に理科実験教室を開いていますが、理系離れが話題となっている今、子どもだけでなく大人にも、身近な科学の楽しさに触れてもらう機会が必要不可欠であると思います。そこで、男女平等センターまつりで、誰でも数分でできる簡単な実験に取り組んでもらう実験コーナーを出して、一緒に科学の楽しさを体験してもらいました。

〈私たちの身の回りには科学がいっぱい〉

センターまつりで行った実験は、「リモコンの信号を目で見る」・「縮むシャボン膜」・「人工イクラ作り」の3つ。どれも身近にある材料を使って数分で出来る簡単な実験でした。「リモコンの信号を目で見る」実験では、「フォトダイオード」という部品を使って、異なるメーカーのリモコンの信号を見比べました。なぜ違う種類(メーカー)のリモコンでは使えないのかを理解しやすい実験だと思います。「縮むシャボン玉」は、食器洗い洗剤と針金ハンガーがあればできる簡単な実験ですが、「表面張力(水滴の縮む力)」を実感することができます。「人工イクラ」は、なんと健康食品の成分として多くの人が耳にしたことのある「アルギニン酸ナトリウム」と「塩化カルシウム」から作ることができるのです。この2つの物質は薬局等に行けば、簡単に手に入れることができます。一見作るのが難しそうに思われる「人工イクラ」も、身近なもので簡単に作れるというのは、今回実験にいらして初めてこの実験をした方々にとってうれしい驚きだったようです。

〈大人から子どもまで楽しめる理科〉

今回の実験ブースには、保育園に通う子どもから大人の方まで延べ30名程度の方に、実験に参加してもらいました。「実験」という言葉を聞いて、「理科が苦手だったから」などと言って、最初は逃げてしまう方もいましたが、実際に取り組んでみると「思っていたより簡単で楽しかった」と言ってくださる方が多く嬉しく思いました。また、実験に面白さを感じたお孫さんがおばあさんを実験ブースに連れてくるという光景も見られ、「理科」が1つのコミュニケーションのきっかけになったと感じることもできました。

この実験ブースを通して少しでも科学の楽しさを伝えることができたなら幸いです。

(お茶の水女子大学 環境科学倶楽部 田中美恵)



参加団体名

舞台発表

カウ・ガールズ、手話ダンス花塚会、楽園会・山を歌うコーラス、花鈴会、文京新婦人コーラスあしたば、文京花笠愛好会、文京リラ、藍トレ合唱団、楽園さつき会、ナニロケラニフラの会、エレファントヨガ、ボランティア音楽会、Kao Line Dance

学習・手作りワークショップ

折り紙教室向日葵、「手」でんの会、日本スベラ協会、花遊楽、グループきらっと、リサイクルイン文京、ネットワーク21、たんぽぽヨーガの会、ドラマティックリーディング文京、お茶の水女子大学環境科学倶楽部

パネル展示

【女性会議文京支部、文京母親連絡会、新日本婦人の会文京支部、文京区更生保護女性会、文京プラタナス、(社)倫理研究所家庭倫理の会文京区、東京第一友の会文京方面、老後研究りんこの会、NPO法人「えこお」、木彫の会

作品展示

月曜会、ストロベリーキャンドル、文京清風会、芙蓉グループ

お茶席

和楽会・ほととぎす、和楽の会

コーヒーショップ/書き

友愛婦人会

カレーショップ/テラサ

文京料理友の会、古見歴史の会、BJG、ももの会、懐石料理を楽しむ会、ヨーガアシュラム春日、混声合唱楽会、原町町会

昔むかし、シエンターがあったとき  
「モモタロー・ノー・リターン」&

## サルカニ・バイオレンス」の著者が語る

日時：平成23年9月10日（土）午後1時半～  
講師：静岡県立吉原高等学校校長 奥山和弘氏

教師の奥山さんは、教育委員会や男女共同参画の啓発の仕事に携わるまでは、この問題に余り関心が無かったそうです。でも、やる以上はしっかりとやろうと思い、一般の方々に易しく問題を啓発して行く方法を考えました。

そこで桃太郎、一寸法師、浦島太郎などの昔話の枠組みを借りて、男女共同参画 シエンター、子育て、DV（家庭内暴力）などの問題を解説することを思いつきました。昔話ではこれらのテーマが常に男性優位に語られていますが、長い間にそれらが「常識」として日本人の心の中に「固定観念」として定着しています。そのことに「気づく」ための手段として、奥山さんは七つの物語を取り上げました。誤解や悪意によるパッシングを乗り越えて、それらを一冊にまとめたのが「モモタロー・ノー・リターン」&サルカニ・バイオレンス」です。



世間一般では、「男らしさ」とは、決断力に富み、強く、深く、泣き言を言わず、夢を追い、女性より収入が多く、家事はしないが日曜大工をこなし、女性をいたわる・・・と現実離れした理想像が描かれています。一方「女らしさ」とは、出しゃばらず、タバコや酒をのまず、情まじやかで、素直で、従順で、しとやかで、繊細な心配りができて、言葉遣いが丁寧で、家事がしっかりできること・・・と考えられています。

この「男らしさ」に代表される「常識」や「固定観念」が、昔話の中に存分に盛り込まれていることに、私たちはこの教材を通して気づきます。奥山さんは、順序がもたらす無意識の効果、夫が妻に対して優位に立って支配しようとする価値観、男の特権意識など、いわゆる「性別特性論」をユーモアを交えて分かりやすく話されました。

「男女共同参画社会とは、性別に関わり無く多様な選択ができる社会」と言い換えることができるが、計画、企画、意思決定の段階から関わる事ができる「参画」と「参加」とは大きな違いがある」という奥山さんの指摘はまさに「目からウロコ」でした。講演では娘さんの育児に関するエピソードなども披露され、時間が過ぎるのを忘れて楽しくお話し聴き入りました。

(広報部)

# プラスワン+1セミナー

暮らしの中に男女平等を

根づかせるために！

～日本社会の閉塞感を打ち破る女性活用法～

日時：平成23年8月6日（土）午後1時半～  
講師：十文字学園女子大学副校長 国連婦人の地位委員会日本代表

橋本ヒロ子氏

日本は世界の中でどのくらい男女平等であるか、日本女性の地位が低いのはなぜかを分かりやすく説明して頂きました。日本はシエンター意識が低く男女の役割が固定し、女性の政治参画や経済活動を抑制している。女性の賃金は男性の賃金の約70%で世界平均の75%よりも低く、資格が有っても時給の低さや税金の壁などがあり、生涯賃金も低くこれが年金にもおよび女性の貧困にも繋がっていることが分かりました。女性が活躍しやすい法制度も不十分で、政府は積極的な取り組みをしていない。今の日本の閉塞感を打ち破るためには、高い志を持った多くの女性議員の活躍が期待され、ワーク・ライフ・バランスをもっと男性に普及させる必要があるとお話になりました。

また東日本大震災にあわれた陸前高田市に、学生とともにボランティアに行かれた様子をお話しになりました。避難所では教護室や更衣室、トイレが男女共用だったり避難所により差があることも分かり、女性がいがに心細い思いで生活しているのが実態として分かりました。被災地では橋本先生や多くの女性たちの努力により、再建の基本方針の中に男女平等参画の文言が入り、要望書を政府に提出できたお話を伺い大変心強く思いました。

非常時には子どもや高齢者等、弱者の視点が抜けてしまいがちになるので、そこに女性の視点を入れることの大切さも分かりました。



暮らしの中に男女平等を根づかせるヒントとして、家庭での家事、育児、介護の役割分担、男女別の子育てをしていないか、車などの高価な買い物の決定権等だれにあるのかを再考してみる。社会、学校、自治会、町内会等で性別役割分担をやめ地域の役員等に積極的に女性を選出し、女性目線による街づくりをする等、身近な所から変えていく事の大切さを感じました。

震災を通して女性の置かれている立場の弱さに、あらゆる場面に女性の視点を入れた復興と、これからの長期に渡り支援を続けていきたいとの先生のお話を伺い、思いを同じにし男女平等センターの役割を再確認できた素晴らしい講演でした。



(千代和子)